

中等教育研究開発室年報 第35号（2022年3月31日発行）別冊電子版
2021年度 授業実践事例

社会科・地歴科・公民科 高等学校第I学年

世界の分割を進めた帝国主義
持続可能な社会の視点からの「歴史総合」授業モデル
—「帝国主義」からSDGsの実現について考える—

授業者 鶴田 輝樹

（校内研究授業）

広島大学附属中・高等学校

高等学校 地理歴史科（世界史A） 学習指導案

指導者 鶴田 輝樹

- 日 時** 令和3年11月19日(金) 第3限 10:40～11:30
- 場 所** 第1社会科教室
- 学年・組** 高校1年2組41人(男子20人 女子21人)
- 単 元** 世界の分割を進めた帝国主義 『明解 世界史A』(帝国書院)
- 目 標**
1. SDGs(持続可能な開発目標)に関連する新聞記事から現代的な諸課題を理解するとともに、その形成に関わる列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について理解する。諸資料から帝国主義時代に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。【知識・技能】
 2. 19世紀後半から20世紀前半にかけての「アメリカ・ヨーロッパ」「アフリカ・オセアニア」「アジア」「日本」の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察する。【思考力・判断力・表現力等】
 3. 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について議論し、SDGsの実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。また、本単元を通して、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。【学びに向かう力・人間性等】

指導計画(全3時間)

第一次 SDGs 関連記事から、現代的な諸課題について理解する。 1時間

第二次 帝国主義時代を多面的・多角的に考察する。 1時間(本時 2/3)

第三次 「帝国主義」からSDGsの実現について構想する。 1時間

授業について

今回の学習指導要領改訂に伴い新たに設置された「歴史総合」は、世界史Aと日本史Aの単なる統合科目ではなく、近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を修得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察・構想する科目であるとされている。

本授業では、一「帝国主義」からSDGsの実現について考えよう一を授業題目として、2030年までにすべての国が取り組むべき行動計画として、貧困(経済格差)と飢餓の撲滅、平和と公正の推進など17のゴールを掲げているSDGsに着目し、その歴史的背景の一つである帝国主義時代について、地域ごとに、歴史的な見方・考え方を働かせながら考察する。さらに、生徒同士の協働・対話を通して、知識を相互に関連付けてより深く理解し、問題を見出して解決策を考える、深い学びの実現を目指す。

授業の概要としては、まず、地方紙・全国紙の新聞記事からSDGsに関連するものを提示し、生徒に現代的な課題である貧困問題と難民・移民問題について認識させる。そして、その諸課題の形成に深く関わっていると考えられる、19世紀後半から20世紀前半にかけての帝国主義時代を、ジグソー法を取り入れることで多面的・多角的に考察させる。具体的には、クラスの中で4人1組のジグソー班を作り、それぞれ「アメリカ・ヨーロッパ」「アフリカ・オセアニア」「アジア」「日本」のエキスパート班に分ける。そして、帝国主義時代の各地域の動きを、「政治」「経済」「外交」「科学技術」の視点から考察させる。また、エキスパート活動では、推移・比較・相互の関連や現在とのつながりに着目させる。最後に授業のまとめとして、現代の諸課題の歴史的経緯について議論した上で、取り上げた新聞記事の課題解決に向けてどのような取り組みを行うべきか表現させ、よりよい社会の実現について具体的に構想させる。更に、今回の学習を通して、別の諸課題(国際紛争、人種差別、ジェンダー不平等、環境問題等)についても、その歴史的背景から解決策を構想するよう促す。

題 目 持続可能な社会の視点からの「歴史総合」授業モデル

—「帝国主義」から SDGs の実現について考える—

本時の目標

1. 帝国主義時代の各国・地域の特徴を理解し、まとめる。【知識・技能】
2. 各国・地域の特徴をグループでまとめ、帝国主義時代と現在の社会問題とのつながりについて考察する。【思考・判断・表現】
3. グループでの議論及び発表の中で、自分の考えを意欲的に主張することができる。【学びに向かう力・人間性等】

本時の評価規準（観点／方法）

1. 帝国主義時代における各国の情勢について整理することができる。【技能／ワークシート】
2. 個人で調べた内容をグループで一つにまとめ、各国・地域の類似・差異・因果関係を説明する。【思考・判断・表現／ワークシート】
3. 様々な意見を考慮しながら議論している。また、他のグループの考えを意欲的に聞くことができる。【主体的に学習に取り組む態度／議論の過程での発言等】

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
○SDGs 関連記事による現代的諸課題の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・2030 年までにすべての国が取り組むべき 17 の目標である SDGs の概要についてそれぞれ理解する。 ・SDGs に関連する新聞記事を読み、現代的な諸課題には貧困(経済格差)や難民・移民に関する問題があることを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs の中でも特に貧困問題、難民・移民問題に関する新聞記事を、授業資料として取り上げる。 ・現代社会の諸課題の形成に関わる歴史的事象として、19 世紀後半から 20 世紀前半にかけての帝国主義時代に着目させる。
○帝国主義時代の多面的・多角的考察	<ul style="list-style-type: none"> ・ジグソー法を用いて、「アメリカ・ヨーロッパ」「アフリカ・オセアニア」「アジア」「日本」の立場から帝国主義時代を、ワークシートを活用しながら多面的・多角的に考察する。 ・エキスパート班で考察した、帝国主義時代における各地域の動きを、各ジグソー班で意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4 人 1 組のジグソー班を作り、「アメリカ・ヨーロッパ」「アフリカ・オセアニア」「アジア」「日本」のエキスパート班に分ける。 ・帝国主義時代の各地域の動きを、「政治」「経済」「外交」「科学技術」の視点から考察させる。 ・エキスパート活動では、推移、比較、相互の関連に着目させ、歴史的事象が現在とどのようにつながっているのか(プラスの影響・マイナスの影響)を考えさせる。
○「帝国主義」を通じた SDGs 実現への構想	<ul style="list-style-type: none"> ・個々で調べた帝国主義時代の各地域の動きをジグソー班で共有しながら、ワークシートを完成させる。 ・現代的な諸課題の背景について議論したうえで、取り上げた新聞記事の課題解決に向けてどのような取り組みを行うべきか班ごとにまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを作成するうえで、各地域の類似・差異・因果関係などについて意識させるとともに、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えさせる。 ・今回の学習を通して、別の諸課題(国際紛争、人種差別、ジェンダー不平等、環境問題等)についても、その歴史的背景から解決策を構想するよう促す。
備考(主な引用・参考文献) <ul style="list-style-type: none"> ・大澤宏晃『帝国主義を歴史する』清水書院、2019 年。 ・原田智仁編『高校社会「歴史総合」の授業を創る』明治図書、2019 年。 		

帝国主義時代(19世紀後半から20世紀前半)と現在とのつながりとは？

「歴史的な見方・考え方」：類似・差異・因果関係を“ \longleftrightarrow ”で結びなさい

組 番 名前 _____

		アメリカ	ヨーロッパ	アフリカ	オセアニア	アジア	日本
時期・推移	政治						
	経済						
	外交						
	科学技術						

現在とのつながり

現在とのつながり

現在とのつながり

現在とのつながり

+の影響						
-の影響						

SDGs達成に向けての取り組み

実践上の留意点

1. 授業説明

本授業の趣旨は、2022年度より本格的に実施される「歴史総合」について、新学習指導要領に示された「目標」「内容の取扱い」をできる限り具現化し、学習指導過程のモデルを示すことである。

今回改定された学習指導要領の「歴史総合」の目標には以下の記述がみられる。

- | |
|---|
| (1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、 <u>現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに</u> 、(後略) |
| (2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、 <u>時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながり</u> などに着目して、(後略) |
| (3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、 <u>解決しようとする態度を養う</u> とともに、(後略) ※下線は筆者がつけたもの |

本授業では、導入として生徒たちに現代的な諸課題をより分かりやすく理解させるために、世界的に注目されているSDGsを取り上げた。SDGsは様々な歴史的事象とのつながりを持ち、近現代の歴史との親和性も高い。SDGsの達成がよりよい社会の実現につながることを考えれば、学習材として取り上げる効果は十分にある。また、「内容の取扱い」で推奨されている客観的かつ公正な資料として、新聞記事を活用した。新聞は生徒たちにとって身近で、問題をイメージしやすいものである。記事の要約を書かせることで、読解力・文章力の向上も期待できる。

さらに、生徒たちの主体的な学習活動を促すために、授業展開の中にジグソー法を取り入れた。それぞれのグループの中を「アメリカ・ヨーロッパ」「アフリカ・オセアニア」「アジア」「日本」に分け、各地域の動きを、ワークシートと資料プリントを活用しながら「政治」「経済」「外交」「科学技術」の視点から考察させた。そうすることで、帝国主義時代の特徴、諸地域間の関係の変容などを多面的・多角的に考察することができ、同時に歴史の見方・考え方の枠組みを理解させることができた。ただ一方で、時代背景が複雑なため、教員が机間巡視を行い、細かくアドバイスをすることが欠かせないことも明らかとなった。

本授業の今後の展望として、次のような課題解決の授業を検討中である。「第2次産業革命から環境問題の改善方法を考えよう」「冷戦構造から国際紛争の解決について考えよう」「脱植民地化から人種差別の撤廃について考えよう」「2000年代の世界の動きからジェンダー平等の実現について考えよう」

2. 研究協議より

・エキスパート活動について知識の質を保障するために、より効果的な方法はないか。

→生徒たちがエキスパート活動を行う際、使用する教材については熟考が必要である。地図や風刺画、原文史料など、生徒たちが基礎的な歴史用語を理解するとともに、近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などについて思考しやすいものを準備することが求められる。

・ジグソー活動を行うことの教育的効果は何か。

→単なる調べ学習に比べ、一人ひとりがエキスパートとして主体性をもって学習に取り組むことができる。その一方、目指すべき知識目標に到達できない可能性もあるため、活動中の授業者の効果的なフォローは欠かせない。

・ワークシートにある歴史を見る視点・要素がシンプルすぎないか。

→歴史の醍醐味として、様々な視点から歴史を捉えていくことは大切である。本授業では、あくまで同時代の他地域との比較がしやすく、別の時代であっても歴史を大観するための枠組みとして「政治」「経済」「外交」「科学技術」を提示したが、さらなる検討は必要だと考えている。

その他にも、研究協議では、「生徒にとって新しい単元を自分たちの力で一から理解するのは難しいのではないか。まずは教師の働きかけで、帝国主義時代にイニシアティブを握ったヨーロッパについておさえる必要があるのではないか」「歴史総合について、教育方法だけでなく、資料を吟味し、内容を精選することが必要なのではないか」という指摘もあった。今後の授業者の課題としたい。

